

ルクセンブルク経済・金融情勢（2013年6月前半）

1. 経済

- コーク・インダストリー社及びコーク・ビジネス・ソリューションズLP社が、同グループの財務、会計及び人事分野を管轄するKBS-Europe社をルクセンブルクに設立すると発表し、シュナイダー経産相は右決定を歓迎するとした。コーク・インダストリー社は、石油精製、化学、繊維等、多岐に渡る部門で活動する米国企業である。（6日付経産省コミュニケ）
- SES社、ロシア連邦宇宙局（Roskosmos）のキャリアロケットを利用して、3日に通信衛星を打ち上げた。同衛星により、ハイビジョンビデオや携帯電話通信といった次世代サービスのエリアが拡大する。（3日付ヴォルト紙電子版）
- 5月の年換算インフレ率は1.65%（4月は同1.72%）で、3ヶ月連続で2%を下回った。（5日付統計局プレスリリース）
- 2012年のフィンデル空港利用者は、192万人で、2011年比7%増加。過去3年間で利用者は23%以上増加している。（10日付ヴォルト紙電子版）
- 2012年、メルテール港（注：当国東部に位置し、モーゼル川に面する港）の貨物取扱量は1,092,110トンで、2011年比▲6.86%。輸出は、鉄鋼製品の輸出量の増加のために1年で47.6%増加したが、輸入はスクラップの輸入減少等により▲18.84%であった。（11日付ル・コティディアン紙）
- ルクセンブルク国鉄（CFL）、2012年の乗客数は過去最高の19.9百万人（2011年比7.9%増）、収益は681.2百万ユーロ（2011年は654.7百万ユーロ）であったが、CFLグループ全体では、4.8百万ユーロの純損失（2011年は2百万ユーロの純損失、2010年は7百万ユーロの純利益）であった。右は主に、商品輸送の落ち込みに起因する。（11日付ル・コティディアン紙）
- SES社、仏フランステレコムの子会社であるGlobeCast社と共に、Orangeルーマニア社に衛星放送プログラムを提供すると11日に発表。（12日付ル・コティディアン紙）
- 2010年、当国では15%の被雇用者がパートタイムで就業。働く女性の3人に1人以上（35%）がパートタイムで就業しているのに対し、男性は同4%のみである。（13日付統計局プレスリリース）
- カーゴルクス社、16日より香港ーコロンプス（米オハイオ州）間の直行便を週2回で運航開始。（15日付ヴォルト紙）

2. 金融

●UBSルクセンブルク、約20名の人員削減を実施すると7日に発表。当初、削減人数は33名を予定していたが、交渉の末に20名程度になった。（10日付ヴォルト紙電子版）

3. 政府

●シュナイダー経産相及びヴィズラー公共事業相、5日にミュンヘンで開催された物流見本市に出席。（4日付政府公報）

●シュナイダー経産相、7日に当国で開催された欧州エネルギー担当相理事会に出席。また、ベネルクス三国、独、仏、澳、スイス間のエネルギー市場統合を強化するための枠組みである「Pentalateral Energy Forum」に出席。（7日付政府公報）

●フリーデン財務相、10日にキリスト教労働組合連合（LCGB）の会合に出席。（10日付政府公報）

●シュナイダー経産相、10日に新しいメディア及び情報システムセキュリティ関連の当国ロビー団体である「SMILE G. I. E.」を訪問。（10日付政府公報）

●ギヨーム皇太子同妃両殿下、シュナイダー経産相の指揮する経済ミッションを率いて17日－19日にフランスを訪問。（14日付政府公報）

※ 当国政府機関の公表資料や各種報道等の公開情報を取りまとめたもの。